

## 関西大学日本・EU研究センター設立10周年

### ◎第5回 Japan Weekを開催



▲名誉博士号贈呈式が挙行されたルーヴェン大学本館

関西大学日本・EU研究センターでは、毎年、ベルギー・ルーヴェン大学において国際シンポジウムを実施すると共に、隔年で「Japan Week」を開催している。本年度は、日本・EU研究センターの設立10周年記念でもあり、11月4日から6日の3日間にわたり、セレモニーや学生交流イベント、国際シンポジウム等のプログラムが実施された。

初日は、元欧州理事会議長ヘルマン・ファン・ロンバイ氏への名誉博士号贈呈式を挙行し、俳人でもあるロンバイ氏による基調講演や「Haikai Literature and Western Adaptations」と題した国際シンポジウムを開催。2日目には、本センター設立と「Japan Week」の運営に尽力された、本学名誉博士でルーヴェン大学教授のウィリー・F・ヴァンドウワラ氏に対する学長表彰を行った。

また、Japan Week プ

レゼンテーション・EU



オープニングセレモニーでの楠見晴重学長の挨拶 ロンバイ氏への名誉博士号贈呈式

ワークショップとして実施された、本学およびルーヴェン大学の学生らによる俳句コンテスト研究報告やポスターセッションでは、活発な質疑や議論が展開され、日本・EU間における貴重な学術交流の機会となった。

■関西大学日本・EU研究センター  
 関西大学創立120周年記念事業の一環として、ベルギーのルーヴェン・カトリック大学(現ルーヴェン大学)内に「関西大学日本・EU研究センター」を2006年11月4日に設置。関西大学日本・EU研究センターは、日本とEU相互の研究交流を促進し、そのための共同研究等を行うための学術研究拠点となるとともに、EUやベルギーの市民や学生に対し、広く日本文化を紹介することを事業目的としている。

### ◎一般財団法人林原美術館と連携協定を締結

## 超高精細デジタル化を用い、芸術資料の鑑賞機会を創成 —地域活性化や地域文化の再評価に関する研究への発展を見据えて—



▲調印文書を取り交わす楠見晴重学長(右)と長瀬玲二林原美術館代表理事

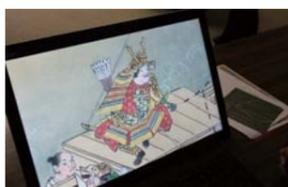
関西大学と一般財団法人林原美術館は、相互的人的・知的資源の活用により研究・教育を通じて協力し、社会に寄与することを目的に連携協定を締結。8月26日に千里山キャンパスにおいて、調印式を行った。

林原美術館は1964年に開館した岡山市最古の美術館。岡山藩主池田家旧蔵の調度品をはじめ、刀剣・甲冑・絵画・書跡・能装束・

螺鈿・蒔絵・陶磁器など、国宝3件・重要文化財26件を含む約1万1千件の貴重なコレクションを収蔵している。

一方、関西大学では、「地域文化・芸術資源可視化(VOLCANO)研究」を目的とする研究プロジェクトユニットが、最新のIT技術(超高精細デジタル画像化)を用いることで、一般の人にも分かりやすい新たな地域文化、芸術資源の鑑賞機会を創成している。

今回この技術を用いることで、同美術館の貴重な資料『平家物語絵巻』を約40倍の高精細画像として拡大し、これまで判別不可能だった画像細部を鮮明に可視化し、新たな知見を得ることができた。今後も本取り組みを貴重な資料や美術品の研究に応用し、同美術館の魅力ある新しい資料展示へつなげることに期待が寄せられる。



▲「平家物語絵巻」の画像を約40倍拡大し超高精細デジタル画像化技術の特色を説明

### ◎関西大学ビジネスプラン・コンペティション開催 企画力を競い、起業・事業化を目指せ!

## KUBIC2015 ~「想像」から「創造」へ10周年のKUBIC~



商学部では10月3日、全国の高校生・大学生などを対象としたビジネスプラン・コンペティション「KUBIC2015~『想像』から『創造』へ10周年のKUBIC~」を千里山キャンパスにおいて開催した。

KUBIC(Kansai University Biz Plan Competition)は、関西大学の教育理念「学の実化」と、商学部の教育理念「品格ある柔軟なビジネスリーダーの育成」を実現するために、商学部創設100周年記念事業として2006年に始まり、今年で10周年。これからの社会でますます必要とされるアントレプレナーシップ(起業家精神と行動)の養成を考量し、その実践的教育の場として、ビジネスプランの創造を全国に呼び掛け募集している。

当日は、合計1742件の応募の中から1次・2次審査を勝ち上がった計10組が、熱のこもったプレゼンテーションを披露。厳

正な審査の結果、高校・高等専門学校の部では、大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校・久保岡由衣さんの「Room for Children—新幹線も思い出の1つに—」、大学・大学院・一般の部では、関西大学商学部・teamsの「“unite”~マイレージという発想~」が優勝に輝いた。

このコンペティションは「学生の力」の発揮をスローガンに掲げ、運営自体も商学部の学生が担っている。過去の実行委員や入賞者の中には、卒業後に起業したり社内ベンチャーを立ち上げたりと各方面で活躍する姿も見られ、今後もKUBIC等を通じ、新しいビジネスを創造してリーダーシップを発揮できる次世代の育成や起業家精神の啓発に力を注いでいく。



プレゼンテーションの様子



表彰式の様子

### 関西大学協賛の「大阪マラソン2015」開催 約700人の関大生が大活躍



10月25日、今年で5回目となる「大阪マラソン2015」(大阪府・大阪市・一般財団法人大阪陸上競技協会主催)が開催された。沿道には132万人もの人々が詰め掛け、応募により選出された約3万2000人のランナーに熱いエールを送った。

関西大学は1回目から協賛団体として大会運営に協力し、地元「大阪」を盛り上げるためにさまざまな形で貢献してきた。今大会も、ランナー20人をはじめ、給水ボランティア415人、チャリティ募金ボランティア35人、語学対応ボランティア33人、清掃ボランティア20人など、総勢約700人の学生と教職員が参加。沿道では「ランナー盛り上げ隊!」として、応援団、チャリーディング同好会CLAIRS、関西大学ダブルダッチ会mix package、Jazz研究会、同好会吹奏楽サークルbisなどが大会に華を添えた。

また、23日~25日にインテックス大阪で「大阪マラソン EXPO2015」が開催され、23・24日には、展示エリアに関西大学ブースを出展。「スポーツ」「運動」を専門とする人間健康学部の小田伸午教授、河端隆志教授と学生らが体験イベント「ランニングフォームクリニック」を行い、実際にトレッドミルを使って、走りのメカニズムや無駄のない走行フォームなどを徹

底解説した。また、同時に「応援横断幕寄せ書き」イベントも実施し、マラソン当日には、その横断幕を沿道に掲げエールを送った。



1. 「ランナー盛り上げ隊!」の応援団  
 2. 本学オリジナルウェアを着た学生ランナー  
 3. 給水ボランティア  
 4. 「大阪マラソン EXPO2015」でのランニングレッスン